

#6 中央支間を競う長大橋の架橋技術

-吊り橋 vs. 斜張橋-



明石海峡大橋：中央支間1991mの世界最長の吊り橋

近代の吊り橋(suspension bridge)は、中央に2本の主塔と両岸にアンカレイジとなる橋台を設置し、これら橋台と主塔の間にケーブルを張渡し、ハンガーケーブルにより通行路となる橋桁（補剛桁）を吊り下げる構造で、各種橋梁形式のなかでも最長の支間をとることができる。明石海峡大橋は、橋長3,911m、中央支間長1,991mの威容を誇る（長大橋のランキングは、中央支間または最大支間によって競われる）。



呼子大橋：海上に架橋された国内最大級のPC斜張橋

斜張橋(cable-stayed bridge)は、主塔から斜めのケーブルによって、直接橋桁を支えるもので、吊り橋に次ぐ長大径間をとることができる。九州本土と加部島とを結ぶ海上橋梁として、1989年に開通した呼子大橋（佐賀県唐津市）は、中央支間250m、橋長723mの我が国最大級のPC斜張橋としてよく知られている。

【画像提供：佐賀県観光連盟】